

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ささゆり
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	瑞浪市南小田町3-300
記入者名 (管理者)	奥村 弘子 成瀬 恭子
記入日	平成 20年 7月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の高齢者の集い(いきいき会)の場で、体操・機能訓練・会話などを通じて理念づくりあげている。	○	「われは人なり。瑞浪市民なり。」が現在の理念であるが、来年度は具体的な内容にする為、口にしやすい言葉を選んでいる段階である。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が一人ひとり理念を意識し”スタッフ会議”で話し合い実践している。		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議や家族への便り”ささゆり咲いた”で取り上げた。また入居時、利用者と家族には”重要事項説明書”の中に運営理念が記載してあり、説明している。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	職員が、隣近所の人たちに旅行の土産を届けたり、また反対に畑で採れた野菜や庭に咲いた花をいただいたり、散歩の途中で出合えば挨拶を交わす日常的な付き合いをしています。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事(どんど焼き・夏祭り・秋祭り・福祉祭り)には毎年参加したり、地域高齢者の集いにも毎月招待が来て参加している。その集いで友人関係を築いた利用者もいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	職員が地域高齢者の集い”いきいき会”の体操・レクリエーション・機能訓練の指導者として参加している。介護相談にも応じている。	○	認知症サポーター養成講座の開催に取り組みたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施し自分たちの気付かなかった改善点を認識し、利用者の為になる改善をしていく。自己評価及び外部評価に基づき改善シートを作成し、改善を実施している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果は報告したが、取り組み状況については報告していない。	○	運営推進会議で改善状況を議題に上げて報告していく。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	他の用事で高齢介護課を訪れた時、現状を聞かれるままに報告したり、指示を仰いだりして連携を取っている。感染症や食中毒情報が、FAXで送られてくる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を活用している利用者があり、管理者や職員は研修会に参加し、知識を得ている。権利擁護が必要な利用者にはそれらを活用できるように支援する用意はある。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は虐待防止の研修会に順次参加し、研修会報告書を提出し、スタッフ会議で報告し、スタッフ全員に周知するようにしている。当施設では虐待はないが、発生しないようお互いに気をつけている。	○	人生の先輩である入居者にそれなりの言葉使いをしない場合、当ささゆりでは虐待にあたる事を職員に周知させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に契約書を読んで、不安が残らないように十分説明している。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話の中で利用者から常に意見、不満、苦情を聞き取り、すぐに解決するようにしている。すぐに出来ない場合は、申し送り帳やスタッフ会議等で話し合い、速やかに解決するようにしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに、利用料の請求書とホームの便り、金銭管理票を郵送している。支払い時に、職員は家族に利用者の暮らしぶり等について説明している。健康状態が変化した時は、すぐに家族に電話連絡している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情解決体制を整備していて、家族等の意見、不満、苦情を吸い取り早急に解決している。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回開催されるスタッフ会議で職員の意見や提案が出され、運営に反映されている。また、管理者が個人的に職員の意見を聞いている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の勤務体制とは別に、状況によって運営者がいつでも勤務に就けるような体制を取っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わった場合、利用者のダメージが少なくなるように運営者が介護に就いている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	岐阜県福祉総合センターの①実践者研修→②管理者研修→③実践者リーダー研修の順で受講する。本年リーダー研修受講者が1名いる。その他の研修会の開催情報は絶えず職員に流している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は岐阜県グループホーム協議会の東濃支部会に参加し、情報交換している。そして、サービスの質の向上に役立っている。運営推進会議に近隣のグループホームの管理者に参加してもらい交流を図っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	今年度8月までにおいて、スタッフ同士個人的には食事に行っているが、全職員での食事会は行っていない。	○ 職員親睦旅行を行いたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資質向上のための勉強会、講演会、研修会等の案内をする勉強会担当者を設置している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時は誰でも不安なので、頻繁にコミュニケーションを取り信頼関係を築いていく。散歩や買い物等の外出時に、会話の中から心配事を聞き取るようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の不安や心配な点、要望をよく聞き、安心して利用できるように十分説明している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	認知症の程度、ADL(日常生活動作)等から必要な支援を見極め、サービス提供している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は利用者と頻繁にコミュニケーションを交わすことにより信頼関係を築き、これからするサービスの説明をし、安心して納得した上でサービスを提供している。他の利用者には、新しい利用者を紹介し早く馴染めるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	年齢からして利用者を、人生の先輩として尊敬している。その土台に立って職員は、利用者のADL(日常生活動作)の自立、QOL(生活の質の向上)を目指し見守り、スキンシップ、会話等を通し家族のような関係を築いて、常に安心して過ごしてもらえるように努力している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ささゆりの行事(バーベキュー 花火大会 クリスマス会等)に家族を招待し、全員で楽しんでいる。また家族が、運営推進会議に出席し意見を述べ、運営に参加している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	嫁姑の気まずい関係にあった利用者が、ささゆりに入居することで離れることができた結果、一時帰宅した際に嫁に歓迎され優しい言葉をかけられた。普段から職員は、家族に利用者の良いところを伝えるように心がけている。利用者が家族の悪口を言う場合、反論せず最後まで傾聴するようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新聞のおくやみ欄を見て、馴染みの人の不幸を知った利用者を、職員が車でその家まで送り、その家との関係が途切れないようにした。また馴染みの人に会いたいと言う利用者を、車で送迎している。一時帰宅を希望する利用者も、同様に送迎している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の悪い利用者は、席を離しトラブルを避けるようにしている。ADL(日常生活動作)の低い人の隣に、自立に近い人の席を置き、支え合えるような環境作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後に病院や他の施設へ訪ねて行き、関係を続けている。亡くなられた時は、告別式に参列した。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に声掛けを心掛け、会話の中から希望や意向を見逃さないように努め、スタッフ会議や申し送りで早期の対応を心掛けている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等から情報収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の暮らしの現状を把握し、介護記録に記載している。変化があれば申し送り帳に記入し、職員全員の周知を図っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者が介護計画原案を立て、サービス担当者会議で修正し介護計画を実施している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回開催されるスタッフ会議で変化のあった利用者の介護計画の見直しを行っている。また早期対応が必要な場合は、その場で対応し介護計画が後から作成される。	○	サービス担当者会議を、職員が手が空くのを待って開催するのではなく、もっと頻繁に行えるようなシステムを作る。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り帳により利用者一人ひとりの情報を職員が共有し、その情報に基づいて支援している。介護計画の見直しにもこの情報は利用されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	基本的に、本人や家族の要望を実現するような支援をしているが、ショートステイやデイサービスを受け入れたことはない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生児童委員には、運営推進会議で意見を述べてもらっている。防災訓練には、消防署の協力を得ている。中学校と高等学校の学生の職場体験を受け入れている。瑞浪市社会福祉協議会主催の福祉祭りには利用者の作品を展示した。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	担当ケアマネと情報交換はするが、他の介護サービスを利用する場合実費になることは、本人及び家族に説明している。デイサービス事業者と割安でサービスを利用できるような約束はしているが、希望する入居者や家族はいなかった。他のサービスを利用したいという要望があれば、いつでも支援できる体制にあります。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本人、家族の意向や必要性がないので、地域包括支援センターと協働したことはないが、地域包括支援センターの職員とは顔見知りなので、情報交換や相談に乗ってもらったりしている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を変えたいという希望がない限り、今迄通りのかかりつけ医を維持し、受診の際は職員が付き添い注意などを聞き、医師との関係を築いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として利用者一人ひとりを尊敬し、丁寧な言葉を掛けている。 プライバシー保護については、介護記録に本人以外の個人名を記載する場合、イニシャルであらわすような注意をはらっている。また、他人に読まれないように気を配っている。	○ 常に尊敬のこころを持って、言葉を発していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者に不穏、不安がないか見守り、見極め、声掛けや会話を大切にし、穏やかな心理状態を維持して、思いや希望を表現しやすくしている。自己決定の選択肢を2つに絞って、決定し易くしている。職員が一方的に説明せず、利用者が納得することに重点を置いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望により、買い物、散歩、昼寝、草取り畑仕事など場合によっては、マンツーマンで支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	馴染みの美容院を希望される利用者には、送迎の支援をしていた。ほとんどの利用者は、月1度の訪問理美容を利用している。近くのスーパーで、好みの衣服や化粧品を購入している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	伝統行事、誕生日には旬の野菜を生かし、出来る人も出来ない人も皆で準備し、食べ、片付けている。春の山菜料理、ほうば寿司、おはぎ、キノコ釜めし等季節料理も、楽しみの一つです。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ飲み物は一人ひとりの希望に沿って提供している。コーヒー、紅茶、ココア、緑茶、スキムミルク、ヤクルト、トマトジュース等である。	○ 現在のところみえませんが、お酒やタバコを好まれる方に対しては他の入居者に迷惑がかからないように配慮します。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者一人ひとりの排泄パターンを排泄記録で把握し、声掛けやトイレ誘導を行っている。失敗されても傷付かれないように支援している。おむつを外せるような方向で支援をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、昼間、隔日週3回の入浴になっているが、カラスの行水が好きな人、長湯が好きな人があり、一人ひとりの希望に合わせて柔軟に対応している。個々に入浴希望時間をお聞きしているが、夜間を希望され入浴した例はない。	○	一人ひとりの意向に沿い楽しんで入浴できるよう支援します。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節や気温に応じてエアコンを使用している。ホッカイロ、湯たんぽ、アイスノン等も使用する。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自分の力に合った生活上の役割を果たすことにより、生きがいを感じて日々過ごされています。例えば絵を描いたり、はり絵をしたり、畑仕事に楽しみを見出され、散歩や外出で気晴らしをしてみえます。喜びや楽しみを見出せない人に対して、職員は頻繁に話しかけるようにしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の現金はホームで管理し記録しているが、本人も小銭を持ちお菓子を買ったり、孫にあげたりしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人のその日の体調をみながら、希望にそってドライブ、買い物、散歩などで戸外に出かけられるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	春は桜見学、夏七夕祭り、花火大会、秋の紅葉狩り・季節を感じる支援をしている。他の施設の夏祭りに参加したり、希望者で喫茶店へも行く。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に年賀状を書いたり、自由に電話をかけている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	玄関を開放し出入り自由にして、いつでも気楽に訪問できるようにしてある。どの家庭でもされているように、お茶やコーヒーを出し快く迎え入れ、居心地よく過ごせるような配慮をし、再訪問につなげている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者は「身体拘束廃止推進員養成研修」を受講し、身体拘束は人権侵害であるとしてスタッフ会議でも議題にあげ、普段から防止に取り組んでいる。当ホームでは、身体拘束をしたことがない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りがあるので、居室に鍵はなく、日中玄関に鍵を掛けないで開放している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はチームワークをしっかりとって、利用者のプライバシーに配慮しながら、夜間2時間おきの巡視をし、トイレや入浴が自立している方でも見守りや確認をして安全に気を付けている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現在の利用者の状態では危険物を排除する必要はないが、念の為包丁だけは見えないところに保管してある。また、職員は常に利用者を見守り、安全確認をして危険を防いでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行不安定な入居者が歩行し始めた時、すぐに職員が見守る。誤嚥防止のために嚥下体操を毎日している。消防署の職員に火災防止について説明を受けた。ヒヤリハットや事故報告書に記入し、事故情報を共有して再発防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の職員から救急法の指導を受けたが、定期的な訓練はしていない。	○	忘れてしまうので、訓練を定期的に行う。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難場所は10m先の公園。運営推進会議の場で地域の代表者である連合区長に災害時の協力を依頼をした。日頃から地域の人々と親密にしている、協力を呼びかけた。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の一人に心疾患があり、最悪の状況を想定しどのように暮らして行くか、家族と話し合ったことがある。異変が出現した場合、家族に電話連絡し対応策について話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、触診、食欲、排泄チェック等で体調異変を職員間ですぐに共有し、対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方が変われば、必ず申し送り帳に記入し、念の為口頭でも申し送っている。症状の経過や変化を医師に知らせ、処方を変えてもらうこともあった。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促すために、ヨーグルトや食物繊維の多い野菜を食材に使ったり、水分量をチェックしたり、体操や散歩を日課にしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	管理者が”口腔ケア講習”を受講し、全職員に指導した。毎食後、口腔ケアの見守り、介助、チェックをしている。隔週で歯科衛生士による口腔ケアを受けている利用者がいる。歯科衛生士の口腔ケアを全利用者を実施したいが、家族の同意が得られていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事形態、摂取方法で支援し、食べる量と飲水量は介護記録に記入し、職員の共有情報となっている。PCソフトで、カロリー計算をしている。	○	専門職によるカロリー計算を行う。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルがある。2006年ノロウイルス流行時、行政からの情報提供もあり薬剤師による講習会を開いて、手洗いと次亜塩素酸ナトリウム消毒を実施した。利用者と職員にインフルエンザワクチンの接種を義務付けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	新鮮な食材を使用し、職員の手洗い、台所と調理用具を清潔で衛生的に保ち、食中毒発生の予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の前を花壇で飾り、感じの良い印象を与えている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	サンルームは、直射日光が当たらずに日よけやすだれが掛けてある。窓を開けていると気持ちの良い風が通り、ついうとうととしてしまう。テーブルの上には野の花が飾ってあり、さりげなく季節感をかもし出している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭い共用スペースではあるが、自分だけの世界に浸っている方もあれば、ソファに座ってお喋りに興じている方もあります。はり絵などの作品を制作する机もあります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるものを持ってきてください。と言っても最小限の生活必需品しか持ち込んでみえないのは、いずれ家に帰るとい願望でしょうか。自分の持ち物を自宅に置いておくことが、家との絆を断ち切らない方法でしょうか。少ない馴染みの物の中には夫の写真、テレビ、本を置いている方があります。据え置きベッドがある。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	トイレの換気扇は常に回して換気をしている。全室空調完備。共用空間は、必要に応じて高窓を開けて換気をしている。光触媒の防臭対策の工事もしてある。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内の動線上には手すりがあり、玄関にスロープが設置してあるので、安全に移動できる。雨の日には、ルームガーデンを通り洗濯物を干しています。物干し竿の高さは、利用者の目の高さになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症の程度に応じて、声掛け、見守り、全介助を一人ひとりに使い分けて自立に向けた支援をしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホームの外回りには花壇や畑があり、気の向いた時に手入れしている。サンルームでは、はり絵をしたりお喋りをして楽しんでみえる。ベランダでは、洗濯をして干して、乾いてから取り入れている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・機能訓練指導員が筋力低下を防止し、残存機能の維持に努めています。
- ・G. H. 内におとなしいトイプードルが居て入居者のところを癒し、免疫力向上に効果があり高齢者の健康維持に役立っています。
- ・入居者のところに寄り添う介護に取り組んでいます。